

第3回望ましい教育環境あり方検討委員会

日 時 平成29年1月12日（水）
午後6時30分
場 所 九戸村役場 会議室

次 第

1 開 会

2 教育長あいさつ

委員長あいさつ

3 協 議

- 九戸村の子どもたちの将来像について
- 将来像実現にむけた学習環境、適正規模について

4 そ の 他

5 閉 会

九戸村の子どもたちの将来像



ふるさと「で」学ぶ
ふるさと「を」学ぶ

ふるさとキャリア教育
ふるさと地域学習

ふるさと「で」学ぶ
ふるさと「から」学ぶ

次期学習指導要領における学びの方向性

新しい時代に必要となる
資質・能力

学びに向かう力・人間性

生きて働く知識・技能

創造力・実験力・表現

何ができるようになるか

何を学ぶか

どのように学ぶか

教科・科目等の新設や目標・内容の見直し
○小学校における外國語教育の教科化
○特別の教科 道徳 など

「アクティブラーニング」の視点からの
学習過程の改善

主体的学び
対話的学び
深い学び

検討委員からのアンケート結果は資料3-2、3-3
参照

子どもに付けさせたい力

I 基本的な力

(読み書き計算、情報のスキル、学び方のスキル、基本的な知識、健康体力・命の尊重)

II 高次の認知能力

(思考力、問題解決力、判断力)

III 対人関係形成力・社会的能力

(表現力・コミュニケーション力、協調性、他者理解、社会参画力)

IV 人間的自立・生き方

(自制心、主体性、自尊心、人間的感性、規範性)

望ましい教育環境

適正規模

適正配置

小中連携教育

課題

九戸村の目指す子ども像

I 基本的な力		□検討委員意見
①読み書き計算・情報のスキル・学び方のスキル		<ul style="list-style-type: none"> ・今この規模は、きめ細かな指導が可能 ・勉強することは、今まで知らなかつたことが分かって楽しい
②基本的な知識		<ul style="list-style-type: none"> ・今この規模は、きめ細かな指導が可能
③健康体力・命の尊重 (基本的な生活習慣)		<ul style="list-style-type: none"> ・体力、気力を身に付けることが第一 ・たくましく生きていく健康、体力。 ・命を大切にし、心身ともに健康で思いやりのある人 ・当たり前のことを当たり前にできる子。
II 高次の認知能力		□検討委員意見
④思考力 (論理的思考力、批判的思考力、創造的思考力)		<ul style="list-style-type: none"> ・多数の中で勉強し社会に出て力を発揮する ・小中高の学校生活で切磋琢磨し、国際社会人として行動できる人 ・いろいろな考え方を持つ多くの友人に・仲間の中で勉強して、多くの経験を通じ、競争心を持ってお互いに切磋琢磨しながら判断力・問題解決力、実行力等生きていくための力を付け、相手の気持ちをくみ取れる心を持つ人 ・自分の意見をもち、それをうまく伝えることや、ほかのさまざまな意見も尊重しながら建設的に議論したりし物事を進めていける協調性。
⑤問題解決力		<ul style="list-style-type: none"> ・多数の中で勉強し社会に出て力を発揮する ・遊びの中に学びがある ・子どもたち同士で問題を解決する ・自分で考えて行動する ・大人になり、社会で人間関係、経済的な困難が生じたときに乗り越える力。 ・友達とかかわりいろいろな体験から、困難にぶつかった時には、話し合いを持ち、自分の考えを出し合い、きちんと解決する ・小中高の学校生活で切磋琢磨し、国際社会人として行動できる人 ・いろいろな考え方を持つ多くの友人に・仲間の中で勉強して、多くの経験を通じ、競争心を持ってお互いに切磋琢磨しながら判断力・問題解決力、実行力等生きていくための力を付け、相手の気持ちをくみ取れる心を持つ人 ・自分の意見をもち、それをうまく伝えることや、ほかのさまざまな意見も尊重しながら建設的に議論したりし物事を進めていける協調性。
⑥判断力 (自己判断・自己決定力、情報収集選択力、課題発見力)		<ul style="list-style-type: none"> ・多数の中で勉強し、社会に出て力を発揮する。 ・自分で判断する ・壁にぶつかる時、悩んで答えを見つけ成長し、自信を持つ。 ・小中高の学校生活で切磋琢磨し、国際社会人として行動できる人 ・いろいろな考え方を持つ多くの友人に・仲間の中で勉強して、多くの経験を通じ、競争心を持ってお互いに切磋琢磨しながら判断力・問題解決力、実行力等生きていくための力を付け、相手の気持ちをくみ取れる心を持つ人 ・自分の意見をもち、それをうまく伝えることや、ほかのさまざまな意見も尊重しながら建設的に議論したりし物事を進めていける協調性。
III 対人関係形成力・社会的能力		□検討委員意見
⑦表現力・コミュニケーション力 (対話力、情報伝達力)		<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に挨拶する・大舞台でのアピール力 ・遊びの中で学ぶ ・小規模でいろいろなリーダシップを体験 ・コミュニケーション力・学校を超えてつながる ・周りに左右されることなく自分の考えをはっきり伝える子ども。 ・自分の思っていることを人前で話したり、他人の話に耳を傾ける ・友達とかかわりいろいろな体験から、困難にぶつかった時には、話し合いを持ち、自分の考えを出し合い、きちんと解決する

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしっかりと意見を持ち、相手に伝え、他人の意見も聞ける人間性豊かな人。 ・家庭、学校、地域住民など人間同士の触れ合い地域行事に参加し、色々な経験をしコミュニケーション力を付ける。 ・いろいろな考え方を持つ多くの友人に・仲間の中で勉強して、多くの経験を通じ、競争心を持ってお互いに切磋琢磨しながら判断力・問題解決力、実行力等生きていくための力を付け、相手の気持ちをくみ取れる心を持つ人 ・自分の意見をもち、それをうまく伝えることや、ほかのさまざまな意見も尊重しながら建設的に議論したりし物事を進めていける協調性。
⑧協調性 (チームワーク、協力、協働)	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で学ぶ ・身の回りの人たちを幸せにする ・思いやりの心を持つ ・学校の枠を超えた活動 ・いろいろな人と出会い、仲間を作る。 ・友達と協力して思いやりの心や感動する心 ・たくましく、心豊かな子ども。世代間交流を通して。 ・一つの目的に向かって友達と試行錯誤を繰り返し意欲的に取り組む ・友達とかかわりいろいろな体験から、困難にぶつかった時には、話し合いを持ち、自分の考えを出し合い、きちんと解決する ・自分のしっかりと意見を持ち、相手に伝え、他人の意見も聞ける人間性豊かな人。 ・いろいろな考え方を持つ多くの友人に・仲間の中で勉強して、多くの経験を通じ、競争心を持ってお互いに切磋琢磨しながら判断力・問題解決力、実行力等生きていくための力を付け、相手の気持ちをくみ取れる心を持つ人 ・自分の意見をもち、それをうまく伝えることや、ほかのさまざまな意見も尊重しながら建設的に議論したりし物事を進めていける協調性。
⑨他者理解 (共感力、多様性理解、共生)	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの人たちを幸せにする ・思いやりの心を持つ ・他人の夢を考える ・日本、世界がどうなっているか関心を持つ。 ・自分と身の回りの人たちを幸せにできる人 ・九戸村、国内外含め全ての地域で通用する「生きる力」を持つ人 ・自分も他者も尊重し、よりよい人間関係が作れることが、信頼され、尊敬される人になる。
⑩社会参画力	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で力を発揮する ・将来も地域とつながる ・自分の生まれた故郷を大切にする ・ふるさとにもどってくる考え方を持つ ・地域との結びつきを持ち、先人の智恵・知識を学ぶことや地域行事に参加し多くの出会いを通して、豊かな人間性を育む。 ・九戸村の歴史学習や農業体験森林体験、食文化体験等を通して、郷土愛を育む。 ・九戸のことを大切に思い、九戸のために何ができるか考え、行動する人。 ・家庭、学校、地域住民など人間同士の触れ合い地域行事に参加し、色々な経験をし、コミュニケーション力や故郷を大切にする思いやりのある人 ・異性を大切に思い、将来結婚し、子どもを育てたいと思う力。 ・九戸村を愛する子ども、九戸村の良さを守り、発展に寄与する子ども。 ・九戸村で生まれ育ったことに誇りに持ち、小さな学校だからといって引け目を感じることなく、自信をもって力を発揮する人。
IV 人間的自立・生き方	
⑪自制心 (耐性・忍耐力、適応力、計画性)	<p>□検討委員意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打たれ強さ・経験をくぐりぬける ・どこにいっても自立してやっていける ・「意地」と「根性」と「たくましさ」社会に出ても動じない心 ・困難なことにも諦めず乗り越えようとする力

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からいろいろなことに挑戦してやり遂げようとする力 ・一つの目的に向かって友達と試行錯誤を繰り返し意欲的に取り組む ・自分のやりたいことを見つけ夢中で取り組む ・自ら健康管理や生活環境を整える力 ・強い心（思いやる心、打たれ強さ、感動する心） ・困難なことでも最後まで責任をもってやり遂げる忍耐力。
⑫主体性 (自立性、リーダーシップ、実行力、労働意欲)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で判断して生きていく ・夢をもつ ・自分で考える ・自立して生きる ・自分のやりたいことを見つけ夢中で取り組む ・間違いや失敗を恐れずにチャレンジする。 ・自分からいろいろなことに挑戦してやり遂げようとする力 ・一つの目的に向かって友達と試行錯誤を繰り返し意欲的に取り組む ・未来に夢を広げ、たくましく生きようとする力（将来の夢や希望を持つ） ・どこに行っても自立してやっていける力 ・強い心（思いやる心、打たれ強さ、感動する心） ・将来に向かっての「夢」の実現を目指し、夢を追いかけながら生きる力を蓄えていく。
⑬自尊心 (自己肯定感、責任感、職能への自負)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を持つ ・自己肯定感を持ち、自信を持って行動する。 ・将来に向かっての「夢」の実現を目指し、夢を追いかけながら生きる力を蓄えていく。
⑭人間的感性 (五感、想像力、人や自然への感動)	<ul style="list-style-type: none"> ・感動する心 ・自然から感じる ・本村の豊かな自然環境、伝統文化を保存し、将来の世代に引き継いでいく人 ・地域との結びつきを持ち、先人の智恵・知識を学ぶことや地域行事に参加し多くの出会いを通して、豊かな人間性を育む。 ・多様な学習体験を通して感性を磨いたり、学校・地域の中で多くの人間関係を学んだりする。
⑮規範性 (倫理観、道徳観、規範意識)	<ul style="list-style-type: none"> ・気軽に挨拶ができる ・当たり前のことを当たり前にできる子。日常の挨拶。 ・善悪を判断する力

■検討委員の意見は、事務局の判断により身に付けたい力の項目に位置付けました。

■検討委員の意見は、身に付けたい力で重複しています。

「望ましい教育環境あり方検討委員会」協議資料

① 学校規模の適正化に関する基本的な考え方

【基本的な視点】

- 第一に学校の果たす役割を再確認する必要があります。義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、児童生徒の集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要となります。こうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されることや、経験年数、専門性、男女比等について、バランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから一定規模を確保することが重要となります。
- 学校規模の適正化の検討は、様々な要素が絡む困難な課題ですが、飽くまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行なうべきものです。各市町村においては、これらからの時代に求められる教育内容や指導方法の改善の方向性も十分勘案しつつ、現在の学級数や児童生徒数の下で、具体的にどのような教育上の課題があるかについて総合的な観点から分析を行い、保護者や地域住民と共に理解を図りながら、学校統合の適否について考える必要があります。

【地域コミュニティの核としての性格への配慮】

- 同時に、小・中学校は児童生徒の教育の施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています。また、学校教育は地域の未来の担い手である子供たちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格を持っています。
- このため、学校規模の適正化や適正配置の具体的な検討については、行政が一方的に進める性格のものでないことは言うまでもありません。各市町村においては、上記のような学校が持つ多様な機能にも留意し、学校教育の直接の受益者である就学前の子どもの保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望されます。

公立小学校・公立中学校の適正規模・適正配置等に関する手引から抜粋
※太字は、事務局によります。

「望ましい教育環境あり方検討委員会」協議資料

学校規模の適正化 ▶ 基本的な視点（1）学級数に関する視点（抜粋）

■学級数が少ないとによる学校運営上の課題

- ①クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- ②クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- ③加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ④クラブや部活動の種類が限定される。
- ⑤運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の効果が下がる。
- ⑥男女比の偏りが生じやすい。
- ⑦上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ⑧体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ⑨班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ⑩協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ⑪教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。
- ⑫生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- ⑬児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ⑭教員と児童生徒との心理的な距離が近くなる。

■複式学級での課題

- ①教員に特別な指導技術が求められる。
- ②複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。
- ③単式学級の場合と異なる指導順となる場合は、単身学級の学校への転出等時に未習事項が生じるおそれがある。
- ④実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。
- ⑤兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約が生ずる可能性がある。

■教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題

- ①経験年数、専門性、男女比等のバランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難である。
- ②教員個人の力量への依存度が高まり、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- ③児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- ④チーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。
- ⑤教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- ⑥学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生ずる。
- ⑦平日の校外研修や他校で行なわれる研究協議会等に参加することが困難となる。
- ⑧教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくく。
- ⑨学校が直面する様々な課題に組織的に反応することが困難な場合がある。

■学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

- ①集団の中で自己主張したり、他者を尊敬する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい。
- ②児童生徒の人間関係や相互の評価が固定しやすい。
- ③協働的な学びが困難になる。
- ④教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある。
- ⑤切磋琢磨する環境の中で意欲や成長を引き出されにくい。
- ⑥教員への依存心が強まる可能性がある。
- ⑦進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- ⑧多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- ⑨多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

学校規模の適正化→併せて考慮すべき視点（2）学級の児童生徒数及び学校全体の児童生徒数

学級数は同じであっても、各学級の児童生徒数や学校全体の生徒数には大きな幅があり、児童生徒数が少ない場合には、一定の学級数があっても、教育活動の質の維持が困難・・・学級数の児童生徒数が10人に満たない場合から40人の場合など様々です。一般に、学校規模が小さいと、きめ細かな指導がしやすくなる、様々な活動のリーダーを務める・・・メリットもありますが、その一方で、学級における児童生徒数が極端に少ない場合は、（1）で述べた課題が・・・顕著な課題として現れる。

■小規模校のメリット

- ①一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- ②意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ③様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。
- ④複式学級においては、教師の複数の学年間を行き来する間、児童相互に学び合う活動を充実させる。
- ⑤運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ⑥教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分整備が可能である。
- ⑦異年齢の学習活動が組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- ⑧地域の協力を得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
- ⑨児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などを把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

■学級における児童生徒数が極端に少ないと現れる顕著な課題

- ・運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の効果が下がる。
- ・クラス内で男女比の偏りが生じやすい。
- ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ・班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ・協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ・教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。
- ・児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ・教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

公立小学校・公立中学校の適正規模・適正配置等に関する手引から抜粋

学校規模等による教育効果について

学校規模によるメリットとデメリット

	小 規 模 化		大 規 模 化	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
【学習面】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団の中で多様な考え方方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○ 1学年1学級の場合、共に努力してよりよい集団を目指す、学級間の相互啓発がなされにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団の中で、多様な考え方触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力をさらに伸ばしやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員による各児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事や部活動等において児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許所有教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。 ○ 中学校の各教科の免許所有教員を配置しにくい。 ○ 児童・生徒数、教職員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校行事や部活動等において児童・生徒一人一人の個別の活動機会を設定しにくい。
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。 	
【生活面】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○ 異学年間の縦の交流が生まれやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。 ○ 切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ○ 集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○ 切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員による各児童・生徒一人一人の把握が難しくなりやすい。
【学校運営面・財政面】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。 ○ 一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いやすい。 ○ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。 ○ 校務分掌を組織的に行いやすい。 ○ 出張、研修等に参加しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教職員相互の連絡調整が図りづらい。

	<input type="radio"/> 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。	<input type="radio"/> 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。	<input type="radio"/> 子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりにくい。	<input type="radio"/> 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。
【その他】	<input type="radio"/> 保護者や地域社会との連携が図りやすい。	<input type="radio"/> PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。	<input type="radio"/> PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。	<input type="radio"/> 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。